

環境審議委員から事前にいただいた意見と市の考え方

No.	意見	意見に対する市の考え方
1	<p>「資料1」について、8月3日～4日にかけて発生した県北豪雨災害に伴う大量の災害廃棄物処理に関する記述があったほうがよかったと思います。今年度は無理としても、記憶が風化しないうちに何らかの形で今回得られた知見や課題を記録に残した方がいいと思います。</p> <p>また、「資料2」にも関連しますが、今回の経験を踏まえた災害廃棄物処理計画の策定が望まれます。</p>	<p>「資料1」につきましては、令和3年度の本市の環境の状況をまとめたものであります。昨年8月の豪雨災害に伴う災害廃棄物処理の経験を通して得られた知見や課題については、今後、本災害の検証作業を行い、記録に残してまいりたいと考えております。</p> <p>また、本市では、昨年3月に「村上市災害廃棄物処理計画」を策定しておりますが、この度の災害を踏まえ、必要な見直しを行いながら、より実効性のある計画にしていきたいと思いますと考えております。</p>
2	<p>持続可能な循環共生型の社会</p> <p>環境に配慮した農業の推進で神林、朝日堆肥センターの利用促進と有ります。</p> <p>・原資となる堆肥は、畜産農家の廃業で減少。その中で、下水処理場から排出される、汚泥を混合させて、新たな堆肥は作れないか？</p> <p>農業資材も(肥料)高騰しており、環境と農業の発展に繋がらないか。また、岩船米のブランド力UPにも繋がる。</p>	<p>現在の堆肥センターは、家畜ふん尿の利用を前提として整備された施設であり、下水道汚泥を混合した堆肥の製造には、計画の変更や既存設備の改修が必要となります。</p> <p>現在、国では、肥料の国産化と肥料価格の抑制につなげるべく、下水汚泥資源の肥料利用の拡大を検討しており、本市においても、下水汚泥を利用した堆肥の製造等について研究してまいりたいと考えております。</p>
3	<p>河川の水質について</p> <p>石川、笛吹川 7月の大腸菌数が多いのは、気温のせいなのか？それとも、他に原因が有るのか。</p>	<p>県環境センターに確認したところ、大腸菌数が増加する要因としては、夏季における水温の上昇、農業用排水や降水による土壌中の大腸菌群の流入などが考えられるとのことであります。</p>
4	<p>市内における大型養鶏場の鳥インフルエンザ発生が地域に及ぼした影響、特に、処置の内容と経過、環境負荷、今後の見通しなどについて報告に追加してほしい。</p>	<p>今回の資料は、令和3年度の本市の環境の状況をまとめたものであります。</p> <p>今年の1月に市内の採卵鶏農場で発生した高病原性鳥インフルエンザについては、飼養されていた約130万羽の採卵鶏を殺処分し、農場敷地内に埋設されました。その後、県では周辺環境への影響調査として、農場周辺等の河川及び地下水の水質調査を継続して実施しており、現在のところ異常は認められておりません。</p> <p>県では、今後も関係集落と協議しながら、調査を継続していくこととしており、市といたしましても、県と連携しながら環境への影響について注視してまいりたいと考えております。</p>